

風流のはじめ館

俳句を中心とした多様な和 문화に親しみ、交流を通してにぎわいを生み出す場として、また、東日本大震災により被災した「芭蕉記念館」の後継施設として「風流のはじめ館」は令和2（2020）年に開館しました。



風流のはじめ館



文化伝承の間

四季彩の庭

花栗の間

オープンギャラリー



風流のはじめ館

風流のはじめ館のまち



結の辻に建つ芭蕉・曾良像

「風流の初やおくの田植うた」は、俳聖・松尾芭蕉が「おくのほそ道」の旅の途中、相楽等躬を訪ねて8日間須賀川に滞在した折に詠んだ句です。

須賀川は江戸時代、奥州街道屈指の宿場町で、商人の自由な気風と活気に満ち、俳諧が盛んなまちとして知られていました。市内には「俳句ポスト」や、芭蕉や等躬をはじめ須賀川ゆかりの俳人たちの俳句が記された軒行灯が商家や民家の軒先に飾られるなど、四季を愛でる心、古きを学ぶ心などが育まれ、先人たちの遺風を受け継いでいます。



市内にある俳句ポスト



敷教第二舎跡

本町には、江戸時代に白河藩の敷教第二舎として、町人の学び舎である須賀川郷学所があったとされています。



可伸庵跡の句碑「軒の栗」



俳句軒行灯